レクチャー1

「原級比較(A+動詞+as ～ as B：AはBと同じくらい～だ)」で大切なこと。

原級比較とは、２つのものを比べて、その程度が等しいことを表す表現です。
as[so] と as の間に形容詞・副詞の原級を用いるのでこう呼ぶのですが、
同等比較と呼ばれることもあります。
この原級比較の(特に文法問題において狙われやすい)ポイントを以下にあげてみましょう。

(1)原級比較の否定は、「A+動詞+not so[as] ～ as B」。「AはBほど～ない」。

①原級比較の否定は「A＜B」と考えるといい。「B+動詞+比較級 than A：Bの方がAより～だ」で書き換えられる。

A+動詞+not so[as] 原級 as B．AはBほど～ではない

＝ B+動詞+比較級 than A．

(ex) Tom doesn't speak Japanese as well as Jimmy.
トムはジミーほど日本語をしゃべれない

=Jimmy speaks Japanese better than Tom.

②更に上記の表現は「劣等比較(less+原級)」でも言い換えられる。

(ex) He is not so tall as I. 彼は私ほど背が高くない
=I am taller than he.

=He is _____ than I.　　解答:less tall

演習問題:以下の英文を劣等比較を用いて書き換えよ。

In those days sugar was not as valuable as salt.
当時は砂糖は塩ほど価値がなかった

In those days sugar _____

解答:sugar was less valuable than salt.

このように劣等比較は「less+原級」で表します。直後の than に引きずられて「less+比較級」としてはいけません。

(ex) This problem is less easy than that.
この問題はそれよりも簡単ではない

上の英文でも「less easier」などとしないこと。less は「(より)～でない」と訳す否定語です。つまり「less+easy」は「more+difficult」と同じです。「less+expensive」は「cheaper」と同じです。
ちなみに「the least+原級」という表現もあり、この場合は「最も～でない」と訳します。

(ex) George is one of the least skillful[上手な] players on the team.
ジョージはチームで一番うまくない(下手くそな)選手のうちの一人です

⑵「(not) as[so]+形容詞+a[an]+名詞+as …」の語順に注意せよ。

(ex) Nursing is just as important (形) a (冠) profession as medicine.
看護という仕事は医師の仕事と同じくらい重要だ

このような語順になる理由は、は副詞の「 so 」「 as 」「 how 」「 too 」の直後に冠詞の「a[an]」を置くことはできないというルールがあるためです。

⑶原級比較を用いた重要表現。

①as many A as … / as much A as …:「…と同じだけ(同じ量)のA」。

元々「形容詞+名詞」だったものが原級比較(as～as)や比較級(～er than)で使われる場合、「形容詞」と「名詞」はバラバラにせずにワンセットで移動します。

S＋V＋形容詞+名詞…. → S＋V as 形容詞+名詞 as…

(ex) He has many books.

⇒ He has as many books as I (have).
彼は私と同数の本を持っている

He has much money.

⇒ He has as much money as I (have).
彼は私と同額のお金を持っている

In Japan there are many universities.

⇒ In Japan there are ten times as many unversities as in Britain.
本には、イギリスの１０倍の数の大学がある

ちなみに「as many as A(可算名詞)」「as much as A(不可算名詞)」は「Aほど(もたくさん)」という意味になります。
※詳しくは「強調の as～as」を参照せよ。

(ex) He has as many as 100 books. 彼は100冊もの本を持っている
He spent as much as fifty dollars. 彼も50ドルも使った

これらは元々、「many 100 books」「much fifty dollars」等という語順ではなかったことを考えてみるといいでしょう。

② as many+A(複数名詞):「(先行する名詞と)同数のA」。

(ex) I made six mistakes in as many pages.
私は６ページに６個の間違いをした

③強調の as～as。

「as[so] ～ as A」の「A」の部分に「時」「数」「量」「程度」などを表す語句があった場合、as[so]～as は「同じくらい」という意味ではなく、その「時」「数」「量」「程度」がいかに「多い(少ない)」「早い(遅い)」「はなはだしい」のかを強調する意味で使われていることがあります。以下にその例をあげてみましょう。

1.as[so] early as A[時・時代等]:早くもAには
(ex) The scientist discovered it as early as the 15th century.
その科学者は早くも１５世紀にそれを発見していた

比較

2.as[so] late as A[時・時代等]：Aになってもまだ

(ex) The custom remained[残っていた] until as late as the 19th century.

その習慣は１９世紀になってもまだ残っていた

3.as[so] recently as A[時・時代等]：ついAのことだ

(ex) The earthquake in Mexico happened as recently as last year.

メキシコでその地震が起きたのはつい去年のことだ

4.as[so] many[much] as A[数・量・金額]：Aほどもたくさん

(ex) He has as many as 1,000 comic books.

彼はコミック本を１０００冊も持っている

He has as much as 1,000 dollars in his wallet[財布].

彼は財布の中に１０００ドルも持っている

③ as+原級+as any ([other]+単数名詞)：「誰[どれ]にも劣らず…」。

(ex) He is as wise as any ([other] man).

彼は誰にも劣らず賢い[とても賢明だ]

He was as great a scientist as any ([other] scientist).

彼は誰にも劣らない偉大な科学者だった

④ as+原級+as ever 過去形(大半はlived)：「並外れた～」「古今またとない～」。

(ex) He was as great a scientist as ever lived.

彼は並外れて偉大な科学者だ

=He was a (very) great scientist.

これは要するに「すばらしい～」という意味です。ever は強調の副詞。

⑤ not so much as do[原形]～：「～さえしない」。

without so much as doing～：「～さえすることなしに(しないで)」。

(前)　(動名詞)

比較

(ex) He couldn't so much as write his own name.
彼は自分の名前さえ書けなかった
=He couldn't even[～さえ] write his own name.

He got out of the room without so much as saying good bye.
彼はサヨナラも言わずに部屋を出て行った

cf:He doesn't like beef so much as you.
彼はあなたほど牛肉が好きではない

⑥ not so much A as B:「AというよりもむしろB」

=B rather than A
=rather B than A
= not A so much as B
= more (of) B than A
= less (of) A than B

(ex) He is not so much a scholar as a politician.
彼は学者と言うよりむしろ政治家である
=He is not a scholar so much as a politician.
=He is rather a politician than a scholar.
=He is a politician rather than a scholar.
=He is more (of) a politician than a scholar.
=He is less (of) a scholar than a politician.

⑦倍数表現。

まず倍数表現(「Aの□倍～だ」)の公式を覚えましょう。

公式：□ times as～as A.「Aの□倍～だ」 ☞□部分に数詞が入る。

=□ times the length of A.「Aの□倍の長さだ」

(height)	(高さ)
(number)	(数)
(size)	(大きさ)
(weight)	(重さ)
(price)	(価格)

比較

上記のように「length(長さ)」「height(高さ)」といった名詞を用いて言い換える表現もあります。

(ex) This building is three times as high as that one.
このビルはあのビルの３倍の高さだ

=This building is three times the height of that one.

この「倍数表現」に関する注意事項をおさえておきましょう。

1.２倍は twice を用いる。

×two times as ～ as A.
○twice as ～ as A

※「two times ～er than A」という表現はあるが、これは一般的な言い方ではない。

2.半分は half を用いる。

×half times as ～ as A.
○half as ～ as A:Aの半分の～だ

3.「Aの１,５倍～だ」は以下の２通りの言い方がある。

①one and a half times as ～ as A
②half as ～ again as A

(ex) Their living room is half as large again as my house.
彼らの居間は我が家の１,５倍の広さがある

=Their living room is one and a half times as large as my house.

4.４分の１は a quater[又は one fourth]を用いる。

○a quarter as ～ as A:Aの４分の１の～だ

5.「AはBの３分の１の大きさだ」等のように分数を入れる場合には「□ times」の部分に分数を入れればよい。

(ex) The population of Spain is about one third as large as that of Japan.
スペインの人口は日本の人口の約３分の１である

比較

6.ちなみに「分数」は「分子」を基数(one, two, three…)で、「分母」を序数(third, fourth, fifth…)で表す。

(ex) 1／3 → one[a] third

2／3 → two thirds ☞分子が2以上になる場合は、分母に複数のsが付くことに注意。

1／4 → one fourth ☞a quarterでもいい。

3／4 → three fourths ☞three quartersでもいい。

レクチャー2

「比較級(A+動詞+～er than B：AはBより～だ)」で大切なこと。

(1)than を用いたセット表現。

以下は than を用いて、決まり文句的に使われるものです。

①比較級+than usual :いつもより

(ex) He got up earlier than usual. 彼はいつもより早く起きた

②比較級+than A used to (do/be) :昔(のA)より、ほど

(ex) He is much stronger than he used to be.
彼は以前よりずっと体が丈夫になった

③比較級+than A (really) is :実際(のA)より、ほど

(ex) My father looks younger than he really is.
父は実際より(見た目が)若く見える

④比較級+than A looks :見た目より、ほど

(ex) She is less old than she looks. 彼女は見かけほど年を取っていない
=She is not as[so] old as she looks.

⑤less than+形容詞　　:少しも～ない

(ex) I was less than satisfied with the results.
=I was not satisfied with the results at all.
結果にちっとも満足しなかった

「less than+数詞」で「A未満」という意味もある。⇔ more than+数詞
(ex) I had less than ten dollars then.
私はその時10ドルも持っていなかった

⑥ A rather than B　　:Bというより(も)むしろA =rather A than B

(ex) He is a poet rather than a novelist.
=He is rather a poet than a novelist.
彼は小説家というよりむしろ詩人だ

⑦know better than to do[廃]～:～するほどバカではない

(ex) I know better than to tell you the truth easily.
僕は、カンタンに君に本当のことを言うほどバカではないよ

⑧other than A　　:A以外の(に)

(ex) You can marry any person other than Romeo.
ロミオ以外のどんな男とでも結婚していい

⑨than I (had) thought[expected]:私が思っていた(予想していた)ほど、より

(ex) The problem was difficult thatn I had expected.
その問題は予想以上に難しかった

⑵不規則の比較変化をする語。

bad, badly } - worse - worst

many, much } - more - most

ill - worse - worst　　little - less - least

far ｛ [距離] - farther - farthest
　　[距離・程度] - further - furthest ｝

old ｛ [年齢] - older - oldest
　　[新旧]
　　[兄弟] - elder - eldest ｝

late ｛ [時間] - later - latest
　　[順序] - latter - last ｝

good, well ｝ - better - best

ちなみに形容詞の latest は「最新の」という意味になります。

(ex) Have you heard the latest news? 最新のニュースを聞きましたか

⑶比較級を強調する副詞。

特に文法問題用に覚えておきたいのは「 much 」「 far 」「 by far 」「 a lot 」。「はるかに、ずっと」等と訳します。

(ex) You look **much** better. (前より) ずっと元気そうですね

He is **much** younger than we (are). 彼は我々よりずっと若い

He is **far** taller than his uncle. 彼はおじよりはるかに背が高い

This one is **by far** the better.
=This one is better **by far**. (２つのうちで)こちらがはるかによい
by farは比較級の後ろに置かれることもある。

He is **a lot** wiser than he was. 彼は以前よりたいそう賢い

上記以外に代表的なものには even や still があります。これらは「更に」等と訳します。

(ex) He is tall enough, but his brother is **still** taller.
彼はずいぶん背が高い、が彼の兄さんはさらに高い

We had an earthquake last year, but the one this time was bigger **still**.

去年地震があったが、今回のはさらに大きかった

stillも比較級より後ろに置かれることがある。

It was hot yesterday, but it's even hotter today.

昨日は暑かったが、きょうはいっそう暑い

ただし注意したいのは「more+A(複数名詞)」を、much で強調することはできない点です。この場合、必ず「many+more+A(複数名詞)」の形にしなければならないのです。ちなみに「more+A(不可算名詞)」の場合は much で強調することができます。

(ex) There are many more women smokers today than twenty years ago.

20年前と比べて、女性の喫煙者が今でははるかに多くなっている」

It will take much more time to finish than you imagine.

それは終えるのには君が想像するよりはるかに多くの時間がかかるだろう

(4)than を用いない比較表現。

「～より」を'than'ではなく'to'を使って表す比較表現は以下の２種類と覚えるといいでしょう。

1.語尾が'ior'で終わる形容詞

2.'prefer'とその派生語

①A is superior to B　「Aは、Bより優れている」
②A is inferior to B　「Aは、Bより劣っている」
③A is senior to B　「Aは、Bより年上である」
④A is junior to B　「Aは、Bより年下である」
⑤prior to A　「Aより(時間・順序等が)前に(の)」
⑥posterior to A　「Aより(時間・順序等が)後に(の)」

⑦prefer A to B　「BよりAを好む」
⑧A is preferable to B　「AはBより好ましい」

これらは、それ自体が比較的な意味を持っているので、例えば more preferable, more superior などと、更に比較級になることはないので注意。

⑸比較級に「the」がつく４パターン。

①～③の the は、比較級の形容詞や副詞を修飾しているので、「名詞の前に置く」という本来の定冠詞としての the ではなく、副詞と考えられている。④は of the two によって限定される名詞の前に置かれる本来の(定冠詞としての)the の用法。

①The+比較級 Ｓ＋Ｖ～，the+比較級 Ｓ＋Ｖ….：～すればするほど(ますます)…

この構文の注意すべき点は以下の通りです。

1.「The+比較級 Ｓ＋Ｖ～」の「Ｖ」の部分が be動詞や become の場合、「Ｖ」は省略されることが多い。

(ex) The older we grows, the weaker our memory (becomes).
年をとればとるほど記憶力は弱くなる

2.うまく訳せないときは、元の形に戻してみるといい。

例えば、

The more information you get, the more likely you are to pass the exam .

という英文の下線部の訳し方がよく分からなければ、比較級となって(theとｾｯﾄで)節頭に飛び出した likely を、元の形、元の位置に戻して見ればいいのです。すると

You are likely to pass the exam.
あなたは試験に合格する可能性がある

という構造が見えてきます。ちなみに be likely to do～ で「～する可能性がある」という意味。そこで全体は「たくさんの情報を手に入れれば入れるほど、あなたは試験に合格する可能性がそれだけいっそう高まる」と訳せます。

3.「The+比較級 Ｓ＋Ｖ～」の部分が３つあった場合には、and のない方が、前後半の切れ目とみなす。

たとえば、

The+比較級 S+V～ and the+比較級 S+V～, the+比較級 S+V….

という構造の英文があったら、

The+比較級 S+V～ and the+比較級 S+V～, // the+比較級 S+V….

つまり、「～すればするほど、そして～すればするほど、それだけいっそう…」と訳せばいいのです。

(ex) The more things a man is interested in, the more opportunities of happiness he has, and the less he is at the mercy of fate.

opportunity:機会
at the mercy of A:Aのなすがままになって、左右されて
fate:運命

上の英文の場合、and のない方となると、in と the more opportunities の間が前後半の切れ目と考えます。そうすると訳はこんな感じになります。「人が興味を持つものが多くなればなるほど、それだけいっそう幸福になる機会も多くなるし、運命に左右されることも少なくなる」。

4.「the+比較級～, the+比較級…」の構文で受験生がよくやるミス。

① The more he thought about it, the more he got excited.

② The more you get information, the more likely you are to pass the exam.

上の英文両方とも間違いです。

まず①については後半が間違っています。その理由は、後半部は元々以下のような英文だったと考えられます。

He got excited.

英文中で比較級になれるのは excited。そして excited の比較級は more excited です。「the+比較級」となって節の頭に飛び出すとすれば、the more excited が節頭に来なければなりません。つまり the more he got excited 等という形はありえないのです。

○ the more excited he got

②については、前半部が間違っています。その理由は、前半部は元々以下のような英文だったと考えられます。

you get much information.

上記のような、元々「形容詞+名詞」の形で文中で使われていた形容詞が比較表現で使われた場合、その「形容詞+名詞」の部分はバラバラにせずにワンセットで移動させるというルールがあるんでした。したがって上の英文も

The more information you get

と、much と information をワンセットで the と共に節頭に移動させなければならないのです。

○ The more information you get

このような形容詞には many[few], much[little]等の数量形容詞が多いですね。

② all / so much } +the 比較級+ { for A / because of A / because S+V… ：A/…の故に(なので)それだけ～

(ex) I love her all the more for her faults.
欠点があるが故にますます彼女のことが好きだ

この構文の注意すべき点は以下の通りです。

1.all や so much は強調の副詞で、省かれることもある。

(ex) I like Mike the better because he is shy.
内気であるが故にそれだけいっそうマイクが好きです

2.理由を表す for, because, because of のうち、for と because of は前置詞なので後ろには「名詞」が because は接続詞なので後ろには「S+V」がくる。

(ex) I like Mike the better because he is shy.
=because of his shyness
=for his shyness

3.because, for 等の、理由文句は、前の英文で既に述べられている場合には省かれることもある。

(ex) When he told the truth, I was the more upset.
彼が真実を言った時、私はいっそう狼狽した

③ none the 比較級 + { for A / because of A / because S+V… } ：A/…だからといって全く～ない

none は副詞で not ～ at all と同じ。つまり「全く～ない」という意味。

(ex) They are none the happier for all their wealth.
彼らは金持ちだからといって別に幸せではない
cf; nonetheless (for A):(A)にもかかわらず
(ex) The rumor is none the less true.
それでもやはり噂は本当だ

④the 比較級 + of the two(+名詞).：２者のうちより～な方

(ex) Tom is the taller of the two boys.
２人の少年のうち、背の高い方がトムだ

「of the two」の部分が文頭にくることもあります。ポイントは、とにかく「of the two」が(英文内に)あったら比較級に「the」をつけよ!、です。

⑹同一(人)物の中の異なった性質を比較する場合、どんなに短い単語でも、「more+原級」にする。

例えば、「ルーシーはナンシーよりもかわいい」と言いたい場合、「ルーシー」と「ナンシー」という別人物同士を比較しているので、普通に pretty の比較級である prettier を使って以下のように表現すれば大丈夫です。

Lucie is prettier than Nancy.

ところが、「ルーシーはきれいというよりかわいい」と言いたい場合、ルーシーという同一人物の中の異なった性質(「かわいい」と「美しい」)を比較しています。このような場合は、必ず(どんな短い形容詞・副詞でも)「more+原級」にしなければなりません。

○ Lucie is **more pretty** than beautiful.

× She is **prettier** than beautiful.　☞この場合prettierは使えない!

以下は同じような例です。

○Jack is **more clever**[計算高い] than wise[知恵がある].

×Jack is **cleverer** than wise.

cf; Jack is **cleverer** than Jim.

(7)比較の対象同士（つまり、比較される者同士）は、基本的に、同じ種類でなくてはならない。

× Your opinion is more practical than he[him].

○ Your opinion is more practical than his (opinion).
あなたの意見は彼より現実的だ

上の英文でも、「あなたの意見」と比較できるのは、あくまでも「彼の意見」であって、「彼」という人間と比較することはできません。したがって than 以下は his (opinion) としなければなりません。

× The climate of Japan is milder than China.

○ The climate of Japan is milder than that of China.
日本の気候は中国よりもおだやかだ

上の例でも、「日本の気候」と比較できるのは、あくまでも「中国の気候」であって「中国」という国家ではありません。ちなみに that of China の that は the climate の言い換えとしての代名詞の that です。

⑻その他の比較級を用いた重要表現。

①否定文～＋much[still/ even] less　A：「～ない。ましてAはなおさら～でない」
=let alone

(ex) He cannot speak English, much less German.
彼は英語が話せない。ましてドイツ語などなおさらできない

②know better than to do[形]～「～するほど馬鹿ではない」
know better　「（～するよりも）もっと思慮分別がある」

(ex) I know better than to tell the stories to him.
私はその話を彼にするほど馬鹿ではない

You should know better at your age.
お前の年ではもっと分別があるべきだ　→　年がいがないぞ

③「ますます～、だんだん～」

1.～er and ～er　(ex) higher and higher

2.more and more+原級　(ex) more and more beautiful

元々「mce+原級」で比較級を表す語の場合、「more and more+原級」で「ますます～」を表すのです。

(ex) It is said that our world is getting smaller and smaller.
我々の世界はますます狭くなってきていると言われる

レクチャー3

クジラ構文。

⑴「クジラ構文」って?

これまで長年の間、受験生を悩ませてきたややこしい、覚えにくい、それでいてよく狙われる構文に、いわゆる「クジラ構文」というものがあります。「クジラ

構文」という名前は、

「クジラが魚でないのは、馬が魚でないのと同じだ」

といったように、なぜだか例文にやたらクジラが登場することに由来します。誰しも受験生なら一度はみたことはある、

「A is no more ～ than B」
「A is no less ～ than B」

といったようなもの達です。
この悩ましい、覚えづらい構文を、墓場に行くまで忘れないような、そして目からウロコのごとくにいともカンタンに攻略してしまう方法を伝授しましょう。

⑵基本ルール。

まずこの構文をマスターするための３つの基本ルールを覚えましょう。とはいっても、そのうちの２つはとっても単純です。

①ルールその１

ルールその１

① no ＝ －「～でない」

② less ＝ －「～でない」

③ more ＝ ＋「～だ」

このように no に対しては、「～(で)ない」という否定的な意味を持つので「マイナス(－)」のイメージ、less も「(より)～ない」という否定的な意味をこれまた持つので「マイナス(－)」のイメージをそれぞれ持ってください。
逆に more に対しては、「(より)～だ」と肯定的な意味を持つので「プラス(＋)」のイメージを持ってください。

②ルールその２

ルールその２

比較

(1)－ × － ＝ ＋（「～だ」［肯定的］）

(2)－ × ＋ ＝ －（「～でない」［否定的］）

これは中学１年生の数学の公式を思い出してみてください。「マイナス×マイナス」は「プラス」、つまり「肯定(～だ)」の意味になると覚えてください。また「マイナス×プラス」は「マイナス」つまり、「否定(～でない)」の意味になると覚えて下さい。

③ルールその３

ルールその３

① no more や no less 、つまり「no+比較級」等と共に用いられる than にはもはや「～よりも」という意味はない。

②「no+比較級」と共に用いられる than… は、as ～ as…と同じで 「…と同様(に)」という意味。前と後ろをイコールの関係で結ぶ記号だと考えよ。

このルールだけが目新しいですね。ただ、一度覚えてしまえばそんなに難しいものでもありません。
さあ、この基本ルールが頭に入れば「クジラ構文」なんて後はカンタンです(^-^)。

(3)A is no more ～ than B

①まず、このような「クジラ構文」では大前提として、必ず than の手前で／を引いてそこで区切って意味を考えます。

A is no more ～ / than B

上のように、まず「A is no more ～」までの意味を整理するのです。

②「no more」は「マイナス×プラス」、即ち全体で「マイナス(～でない)」となりますね。つまり「A is no more ～」の意味は「Aは～でない」という意味になるのです。

③次に than は、先程も「ルールその３」で言ったように「〇〇と同様に」。ということはこれをつなげると

A is no more ～ / than B
「Aは～でない」　「Bと同様に」

となります。つまり「AもBも両方とも～でない」ということを言ってるに過ぎないとわかるのです。カンタンですね(^-^)。全く暗記など必要ありません。実際の例文で使ってみましょう。

(ex) I am no more able to speak Spanish than you.

【解説】①まず than の手前で／を引き、そこまでの意味をとる。
I am no more able to speak Spanish
②「no more」だから「－ × ＋」でトータル「－」つまり「～でない」。全体は「私はスペイン語を話せない」となるはず。
③than は「〇〇と同様に」だから、than you は「君と同様に」。
④前後半をつなげれば「私はスペイン語が話せない＋君と同様に」 ⇨ 「私は君同様(つまり私も君も)、スペイン語を話せない」となる。

④「no」は「not ～ any」で書き換えられることから、上記の構文の no の部分に not ～ any を代 入すると以下のようになります。

A is no more ～ than B ⇨ A is not ～ any more than B

両者は意味は同じ。例題もこのルールを使って以下のように表現することも可能です。

⇨ I am not able to speak Spanish any more than you.

これは以下のように、ひとつの公式として覚えてしまいましょう。

A is no more ～ than B
=A is not ～ any more than B

比較

(4)A　is　no more ～ than B is C

①今度は than の後ろに「S+V」構造が続く、先程の応用形です。
これもまず than の手前で／を引いて、そこで区切って意味を考えます。

A is　no more ～ / than B is C

上のように、まず「A is no more ～」までの意味を整理するのです。

②「no more」は「マイナス×プラス」、即ち全体で「マイナス(～でない)」となります。つまり「A is no more ～」の意味は「Aは～でない」という意味にりますね。ここまではさっきと同じです。

③さあ次に「than B is C」の部分をどう考えるか。ここが問題です。
正しい考え方はこうです。「ルールその３」で言ったように than は「〇〇と同様に」という意味で、前後を「イコール関係」で結ぶ記号だと考えます。つまり今回、than の結ぶ一方(左側)が no more、つまり「～でない」というマイナス(否定)であるなら、もう一方(右側、つまり than の後ろ)も「～でない(マイナス)」になると考えるのです。than 以下に not 等の否定語がついていなくても、です。そうすると、前後半をつなげると以下のようになるわけです。

A is　no more ～ / than B is C
「Aは～でない」　「BがCでないと同様に」

これも実際の例文でうまく使えるかどうか試してみましょう。

(ex) A home without love is no more a home than a body without a soul[魂] is a man.

【解説】①まずこれも手順は同じで than の手前で／を引いて、そこまでの訳をまとめてみる。
A home without love is no more a home
no more なので、「－×＋」になり、トータルで「マイナス」つまり「～でない」となるはず。そうすると前半部の訳は、

「愛のない家庭は家庭ではない」

比較

となるね。

②次に後半。

than a body without a soul[魂] is a man.

の部分。どこにも否定語はついていないけど、than の左側が「マイナス(～でない)」だったので、この部分も「マイナス(～でない)」となると考える。とすると訳は

「魂のない肉体が人間でないのと同様に」

となるね。で全体は

「愛のない家庭は家庭ではない。魂のない肉体が人間でないのと同様に」。楽勝だV（^0^）。

㊙ただ、「A is no more～ than B」に関しては、場合によっては「AはBよりも～ということはまったくない」と、ふつうの(否定の)比較構文として訳す場合もあるので、注意が必要。クシラ構文なのか、ふつうの比較構文なのかは、これは文脈判断ということになる。

(ex) This question is no more difficult to solve than that one

この問題が、あれよりも解くのが難しいということは全くない

⑸A　is　no less ～ than B

①ここまでわかってしまうと後はもう「芋づる式」に、つまり同じ要領でカンタンに意味が見極められてしまいます。

今回は more が less に変わっただけの話。これも同じようにまず than の手前で／を引いてそこで区切って意味を考えます。

A is no less ～ / than B

上のように、まず「A is no less ～」までの意味を整理するわけです。

②「no less」は「マイナス×マイナス」、即ち全体で「プラス(～だ)」となります。つまり「A is　no less ～」の意味は「Aは～だ」という意味になります。

③次に than は、先程も「ルールその３」で言ったように「○○と同様に」。ということはこれをつなげると

A is　no less ～ / than B
「Aは～だ」　　「Bと同様に」

となる。つまり「AもBも両方とも～だ」ということを言ってるに過ぎないとわかるわけです。これも実際の例文で使ってみましょう。

(ex) Money is no less important than love (is).

【解説】①まず than の手前で／を引き、そこまでの意味をとる。
Money is no less important
②「no less」だから「－ × －」でトータル「＋」、つまり「～だ」。全体は「お金は大事だ」となるはず。
③than は「○○と同様に」だから、than loveは「愛と同様に」。
④前後半をつなげれば「お金は大事だ＋愛と同様に」 ⇨ 「お金は愛と同様に(つまりお金も愛も)大事だヨ～」となる。

(ex) I can no less speak German than you can speak French.

【解説】①まずこれも手順は同じで than の手前で／を引いて、そこまでの訳をまとめてみる。
I can no less speak German
no less なので、トータルで「プラス」、つまり「～だ」となるはず。そうすると前半部の訳は、

「私はドイツ語を話せる」

となるね。
②次に後半。
than you can speak French.
の部分。今回は than の左側が「プラス」だったので、than 以下も「プラス(～だ)」になると考える。
とすると訳は
「あなたがフランス語を話せるのと同様に」
となるね。で全体は
「私はドイツ語を話せる。あなたがフランス語を話せるのと同様に」。これまた楽勝だV（^0^）。

(6) no more than と no less than。

これは例文で考えた方が分かりやすいでしょう。

(ex) He has no less than 100 dollars.

上の英文、no less の後ろにある than はこれまで通り、「前後をイコールで結ぶ記号」だと考えます。ということは

He has	=	100 dollars
「彼が持っているもの(額)」		「100ドル」

と、「彼が持っているもの(額)は100ドルだ」という意味が成り立ちます。あとはそこに no less というニュアンスがつけ加わったとみるのです。
no less は「マイナス×マイナス」だから、トータル「プラス」。つまり「肯定的」なニュアンスを持つことになります。肯定的なニュアンスをもって(あるいはその多さを強調して)「彼は100ドル持っている」と言っているわけです。そするとこんな日本語訳が成り立ちます。

「彼は100ドルも(たくさん)持っている」

結果的にこの no less than は「as much[many] as…」で言い換えられることになります。

(ex) I have no more than 100 yen.

この英文の than も同じように「前後をイコールで結ぶ記号」だと考えます。ということは

I have	=	100 yen
「私が持っているもの(額)」		「100円」

と、「私が持っているもの(額)は100円だ」という意味が成り立ちます。あとはそこに no more というニュアンスがつけ加わったとみるのです。
no more は「マイナス×プラス」だから、トータル「マイナス」。つまり「否

定的」なニュアンスを持つことになります。否定的なニュアンスをもって(あるいはその少なさを強調して)「私は100円持っている」と言っているわけです。とするとこんな日本語訳が成り立ちます。

「私は100円しか持っていない」
「私が持っているのは100円に過ぎない」

結果的にこの no more than は「as little[few] as…」「only…」で言い換えられることになります。「no more than」が only と同じ意味になるのは結果論に過ぎないのですね。

(7) not more than と not less than。

これについては「プラス」だの「マイナス」だのといったことはやらないで語呂合わせ、というか力技(ちからわざ)で覚えてしまいます。
not more than は at most(多くとも、せいぜい) と同じ意味になります。これは、not more の 「t m」と「at most」の「t m」が、同じ t m(ティーエム)つながりになっているのを引っ掛かりにして覚えてしまいましょう(than はこれまで通り「イコール記号とみてもかまわない)。
not less than は at least(少なくとも)と同じ意味になります。これは、not lessの「t l」と「at least」の「t l」が、同じ t l(ティーエル)つながりになっているのを引っ掛かりにして覚えてしまいましょう。

① not more than ＝ at most 「多くとも」「せいぜい」

② not less than ＝ at least 「少なくとも」

(ex) 1. There are not more than ten persons in the room.

2. I have not less than five hundreds dollars.

【訳】1.部屋にいるのはせいぜい１０人である。
2.私は少なくとも500ドル持っている。

比較

⑻A　is　not less ～ than B

①これはまた初心に戻って than の手前で／を引いて、まずそこまでの意味をまとめてしまいます。

A is not less ～ / than B

上のように、まず「A is not less ～」までの意味を整理するわけです。「not less～」は、t l(ティーエル)つながりで at least と同じ、つまり「少なくとも」と考えます。とすると前半部の意味はこうなります。

「Aは少なくとも～だ」

②次に than は、これまでと同じで「〇〇と同様に」。ということはこれをつなげると

A is　not less ～　/　than B
「Aは少なくとも～だ」　「Bと同様に」

となります。つまり「Aは少なくともBと同じくらい～だ」という意味になるわけです(この構文は参考書には「AはBに勝るとも劣らず～だ」なんて訳がついていて、これまでならそれを丸暗記するしかなかったのですが、もうこれでそんな苦労はしなくてもよくなりましたね)。
これも実際の例文で使ってみましょう。

(ex) Tom is not less diligent than his big brother.

【訳】トムは少なくともお兄さんと同じくらい勤勉だ。

⑼応用編「no+比較級+than A」の構文。

よく参考書などに以下のように書いてあるのを見かけます。

① no easier than A　＝ as difficult as A：「Aと同じくらい難しい」
[hard]

② no bigger than A　＝ as small as A　：「Aと同じくらい小さい」

③ no better than A　＝ as bad as A　　：「Aと同じくらい悪い」

これも以前なら丸暗記するしかなかったかもしれませんが、今ならこれらも暗記不要で頭に入れられます。その考え方はこうです。
no easier, no bigger, no better は、共に「no+比較級」です。「no+比較級」の後ろの than は「…と同様に」、つまり「as～as…」で言い換えられるはず。
で、①の no easier は「カンタンではない」つまり「難しい(difficult)」ということなのだから、結果として「as difficult as A」と同じ意味になるんだ、と考えればいいわけなのです。

no easier　than　A
↓　　↓
difficult　as～as

⇩

as difficult as A

「Aと同じくらい難しい」

そうすると同じ要領で、②の no bigger は「大きくない」つまり「小さい」ということなのですから、結果として②は「as small as A」と同じ意味になる。
③の no better は「良くない」つまり「悪い」ということなのですから、結果として③は「as bad as A」と同じ意味になるというわけです。
この考え方で、今後どんな「no+比較級+than A」が文中に現れても、その意味を(これは「as+原級+as」で言い換えてしまえばいいと)カンタンにとることができるようになったわけです。

和訳演習問題:以下の英文を日本語に訳しなさい。

(1)A whale is no more a fish than a horse.

(2)A home without love is no more a home than a body without a soul is a man.

(3)He is no less intelligent than his father.

(4)My mother loved me no less ardently[熱烈に] than father.

(5)A whale is no less a mammal[哺乳類] than a horse is a mammal.

(6)I had no more than 100 yen.

(7)He said no more than we had thought.

(8)It is no more than an accident.

(9)I had no less than one million dollars.

(10)He lost no less than his whole fortune.

(11)I paid not more than 10 dollars.

(12)I paid not less than 10 dollars.

(13)Good sleep is not less necessary than good food.

(14)Enough light is not less necessary than enough water to growth of plants.

解答(1) 「クジラは馬が魚でないのと同様、魚ではない」
(2) 「愛のない家庭が家でないのは、魂のない肉体が人間でないのと同様である」
(3) 「彼は父親同様頭がいい」
(4) 「母は父同様私をとても愛してくれた」
(5) 「クジラは馬同様哺乳類である」

比較

(6) 「私は100円しか持っていなかった」
(7) 「彼は我々が思っていたことしか言わなかった」
(8) 「それは単なる事故に過ぎない」
(9) 「私は100万ドルも持っていた」
(10) 「彼は全財産までも失ってしまった」 ※その「(失った額の)多さ」を強調している。
(11) 「私はせいぜい10ドル払った」
(12) 「私は少なくとも10ドル払った」
(13) 「安眠は良い食事に勝るとも劣らず必要である」
「安眠は少なくとも良い食事と同じくらい必要なものである」
(14) 「植物の成長にとって、十分な光は十分な水に勝とも劣らず必要である」
「植物の生長にとって、十分な光は十分な水と同じくらい少なくとも必要だ」

レクチャー4

「最上級(A+動詞+(the)～est of/in…:Aは…のうちで最も～だ)」で大切なこと。

最上級は3つ(三者)以上の中で「最も程度(数・量)が高い・多い・甚だしい」ことを表す表現です。
ちなみに「原級比較」や「比較級」は2つのうち(二者間)での比較でした。
この最上級の(特に文法問題における)狙われやすいポイントを以下にあげてみましょう

(1)最上級で用いる「～のうちで」の in と of に関して。

「～のうちで」に of を使うか、in を使うかは後に続く名詞で決まります。

①in の後には "範囲(クラス・家族・場所など)"を表す単数名詞がくる。

(ex) He is the tallest boy **in** his class.

Mt. Fuji is the highest mountain **in** Japan.

②of の後には"構成要素"を表す複数名詞や複数扱いの名詞(people等)がくる。

(ex) He runs the fastest **of** all students in his class.

⑵最上級を強調する語句。

最上級を強調する副詞は以下の４種類です。

very「まさしく」，much「ずばぬけて、抜群に」，far「ずばぬけて、抜群に」，by far「ずばぬけて、抜群に」

ただし、「very」とそれ以外では、その位置が異なる点に注意しましょう。

(ex) This is the very best dictionary.　☜very はtheの右側に置く点に注意。

=This is much the best dictionary.
[far]
[by far]

このように、very だけは the の右側に置かれる点に注意して下さい。

⑶「(the) least+原級(の形容詞・副詞)」で「最も～でない」。

(ex) The house which looks the least pretty is my house.
いちばんきれいでないのが私の家です

[the least+名詞」も、「not ～ the least+名詞」で「少しの…(さえ)もない」という意味になる。

(ex) He did not give me the least trouble.
彼は私に少しのやっかいもかけなかった

肯定文では「the least+名詞」は「(量・程度・重要性等が)最も少ない、最少の」という意味になる。

(ex) Jim had the least money of them all.
彼らの中でジムが一番少ししかお金を持っていなかった

least は little の最上級として単独で(代名詞として)用いられることもあります。

(ex) The least I can do is to go with you.
せいぜい私にできることは君と一緒に行くことくらいだ
The least you can do is to stop smoking.
せめてタバコぐらいやめてくださいよ
That's the least of my worries.
(ほかに心配事があって)そんなことはちっとも心配していない

比較

⑷「the+最上級」が even の意味を含む場合がある。

下の英文を見てください。

(ex) The wisest man often makes mistakes.

直訳すると「最も賢い人間がときどき間違いを犯す」となり、意味が通りませんね。
このように、最上級がそのままでおかしな意味になる場合、「～でさえ」という even をその前に補ってみるといいのです。

→ Even the wisest man often makes mistakes.
(たとえ)どんなに賢い人でさえ間違いをおかすことがある

⑸「one of the+最上級+A(複数名詞)」で「最も～なAのうちの１つ」という意味になる。

(ex) She is one of the tallest girls in her class.
彼女はクラスの中で一番背が高い女の子の一人だ

この「one of the+最上級+A(複数名詞)」は「among the+最上級+A(複数名詞)」で書き換えることができます。

→ She is among the tallest girls in her class.

⑹最上級に近い意味を表す表現。

S+V+ the ～est of[in]…「Sは…のうちで最も～だ」という最上級の構文を比較級・原級比較を用いて書き換える場合、以下のような書き換えが可能です。

① Ⓢ+Ⓥ { as[so]～as / ～er than } any+(other)+単数名詞.

《Points》
1.訳し方は「Ⓢは他のいかなる○○よりも(と同じく)～だ」。other は文脈でわかる場合は省略されることがある。

2.any other+単数名詞は「all the other+複数名詞」で言い換えられる。

3.any other thing(「他の何物よりも」)は anything else で言い換えることができる。
any other person(「他の誰よりも」)は anybody[anyone] else で言い換えることができる。

② No+(other)+単数名詞 (Ⓢ) + Ⓥ { as[so]～as / ～er than } + A.

《Points》

1.訳し方は「Aほど～なものはない」。
「No+(other)+単数名詞」は、Nobody[No one], Nothing になることもある。また、No 以外の否定語、たとえば Few, Little 等が来ることもある。その場合の訳は「Aほど～なものはほとんどない」となる。なお、Few の後は複数名詞になる。

(ex) Few people know more about Royal family than him.
彼ほど皇室についてよく知っている人はほとんどいない

2.other は省略可能。

(ex) No (other) company in Japan is bigger than Toyota.

ただし、比較対象が同一の範疇でないものの場合は other は絶対につけない。

× No other building in Japan is higher than Mt. Fuji.
○ No building in Japan is higher than Mt. Fuji.

上例の場合、「建物」と「山」との比較、つまりその範疇が異なるので、other をつけると論理的におかしいのである。

最後に「愛は(全てのもののうちで)最も大切なものだ」を、それぞれの表現を用いて書いてみましょう。

(ex)Love is the most important thing (of all).
=Love is as important as any other thing[anything else].
=Love is more important than any other thing[anything else].
=Nothing is as important as love.

=Nothing is more important than love.

③その他。

1.as～as any　　「誰[どれ] にも劣らず～」

2.as～as ever+動詞の過去形　「並外れた～」

(ex) He is as great a writer as any.
=He is as great a writer as ever lived.
=He is the greatest writer that ever lived.
彼は古今に並ぶ者のない偉大な作家である

cf; He is as cheerful as ever.　☞「as ～ as ever」で「相変わらず～」。
相変わらず彼は陽気だ

(7)最上級を用いた慣用表現。

① the＋序数＋最上級　：「□番目に～」

(ex) Shanghai is the second largest city in the world.
上海は世界で２番目に大きな都市です

②「〇〇ぶりに」。

1.「大雨」「大地震」「暑さ」「寒さ」等の程度を表す名詞(形容詞)が「〇〇ぶり(の)」の後に置かれている場合は、最上級を用いて表現する。

(ex) This was the heaviest snowfall in ten years
これは過去10年間で最も多い雪だった ⇨ 10年ぶりの大雪
This is the severest earthquake in fifty years.
これは過去50年間で最もひどい地震だ ⇨ 50年ぶりの大地震

2.「the+最上級+A(名詞)+(that) S have ever+p.p.～：Sが今まで～した中で最も…なA」で表す。

(ex) This is the hottest weather (that) we have had in five years.
これは５年ぶりの暑さだ

比較

上記の表現は「最上級」の書き換えの問題としてもよく出題されます。

(ex) She is the most wonderful lady that I have ever seen.

=I have _____ .

=I have never seen so wonderful a lady as she (is).
(形) (冠)

解答:never seen such a wonderful lady as she (is).